



ごあいさつ

皆様には、平素より私ども「熊谷商工信用組合（くましん）」に格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

当組合は、昭和28年に創業し、今年で65周年を迎えることができました。これもひとえに地域の皆様のおかげであり重ねて御礼申し上げます。埼玉県北地域のコミュニティバンクとして地域の皆様と共に歩み、今日の経営基盤を築いて参りました。より多くの皆様に当組合の経営内容や営業実績等をご覧頂き、「くましん」をより一層ご理解頂けるよう、今年度もディスクロージャー誌を作成致しました。

平成29年度の我が国経済は、アベノミクスの取組の下、緩やかな回復基調を続けています。また海外経済も回復していることを背景に、輸出や生産が持ち直す企業を起点にした好循環が進展しており、雇用情勢が一段と改善する中で人手不足感はバブル期並みに高まっています。少子高齢化・人口減少が進む中で、人手不足を克服し持続的な経済成長につなげるためには、働き方改革と新技術の導入を同時に進め、生産性の向上と多様な人材の労働力確保を図ることがデフレ脱却への大きな課題であります。こうした中、当組合は平成29年10月より3年6ヵ月の第8次中期経営計画書を作成、「ビジネスモデルの変革」を進めながら、「くましんの将来像」を役職員と共有すべく、取組んでいます。

平成29年度決算につきましては、貸出金期中平均残高が2,186百万円増加しましたが、市場金利の低下による貸出金利回りの低下が影響して貸出金利息収入は前期比6百万円の増加に止まり、1,057百万円となりました。また、預け金利息、有価証券利息配当金等は合計で前期比17百万円減少の300百万円となりました。しかし支払保証料などの役務取引等費用などの業務費用が前期比48百万円減少したことにより、金融機関本来の収益力を表すコア業務純益は前期比17百万円増加の56百万円となりました。当期純利益につきましても、前期比20百万円増加の74百万円となり、収益の確保が厳しい環境下の中、前期以上の利益確保をすることができました。平成30年度も金融環境は更に厳しいものになると予想しておりますが、今後も「役職員の意識改革」と「収益構造の再構築」にこれまで以上に注力していく所存であります。

当組合は長年に亘りお客様のご愛顧ご支援を賜り、発展を遂げることができておりますが、地域経済を取り巻く環境は更に厳しいものとなる見込みであり「地域経済の発展に貢献」「お客様本位の業務運営」「本業での収益力強化」「働きがいのある職場環境づくり」を基本方針として積極的に取組んでまいります。引続きのご愛顧ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年7月

熊谷商工信用組合 理事長 **吉田 豊**